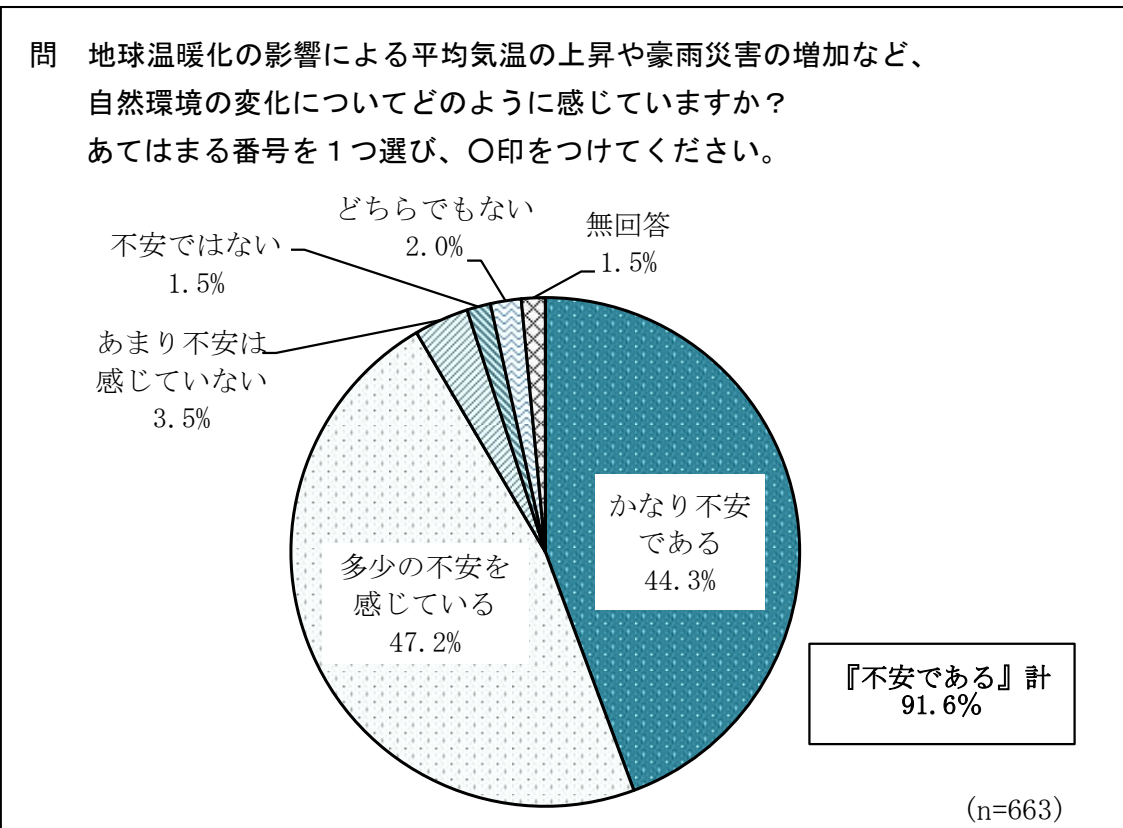


## 4. 気候変動対策（地球温暖化対策）について

### （1）自然環境の変化への不安感



—— 9割の市民が自然環境の変化への不安を感じている ——

#### 【全体結果】

自然環境の変化への不安感については、「かなり不安である」（44.3%）と「多少の不安を感じている」（47.2%）の両者を合計すると『不安である』（91.6%）となっています。

一方、「不安ではない」（1.5%）と「あまり不安は感じていない」（3.5%）を合計すると『不安はない』（5.0%）となっています。

#### 【属性別結果】（図 4-1 参照）

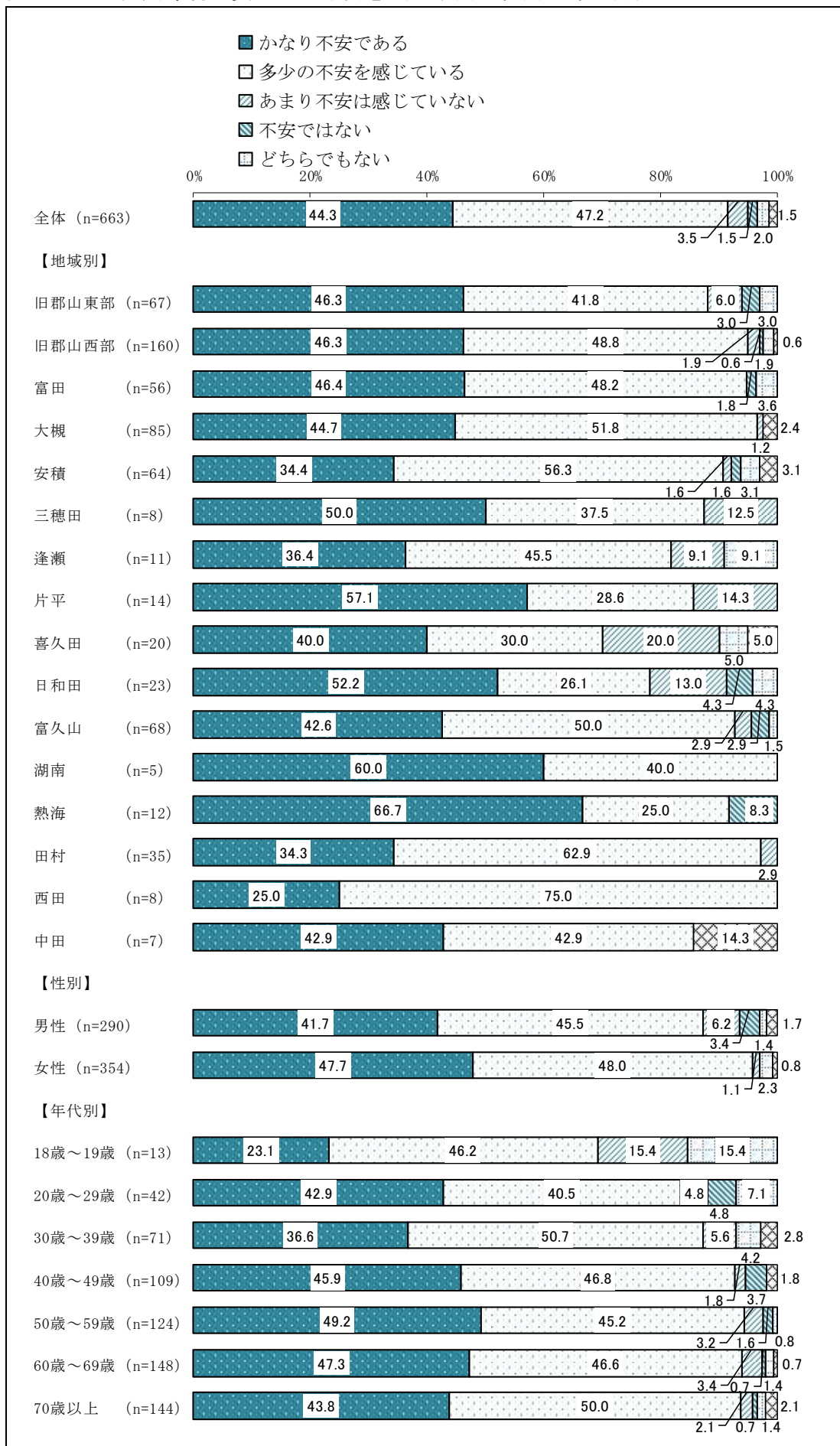
##### ① 性別

『不安である』の割合は、女性（95.8%）の方が男性（87.2%）よりも高くなっています。

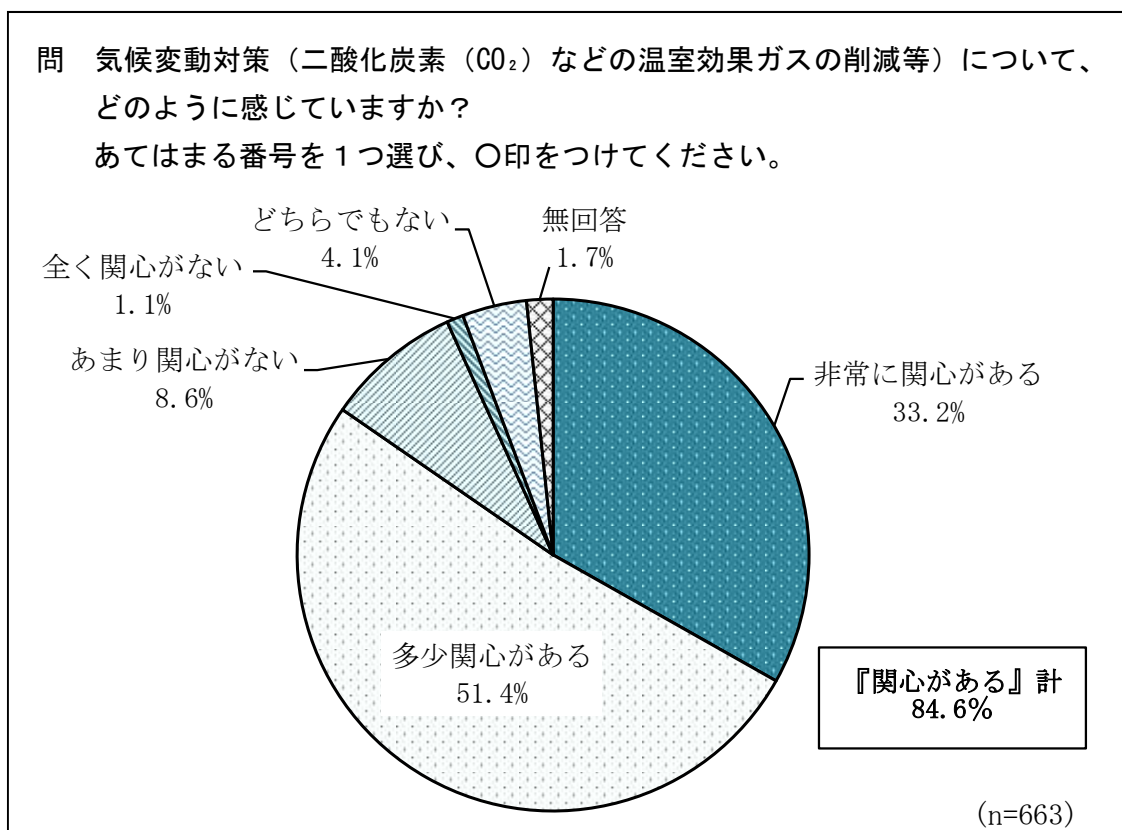
##### ② 年代別

『不安である』の割合は、30代以上で9割前後と高く、20代（83.3%）で最も低くなっています。

図 4 - 1 自然環境の変化への不安感（地域別／性別／年代別）



## (2) 気候変動対策への関心



—— 8割半の市民が気候変動対策への関心がある ——

### 【全体結果】

気候変動対策への関心については、「非常に興味がある」（33.2%）と「多少興味がある」（51.4%）の両者を合計すると『関心がある』（84.6%）となっています。

一方、「全く興味がない」（1.1%）と「あまり興味がない」（8.6%）を合計すると『関心がない』（9.7%）となっています。

### 【属性別結果】（図 4-2 参照）

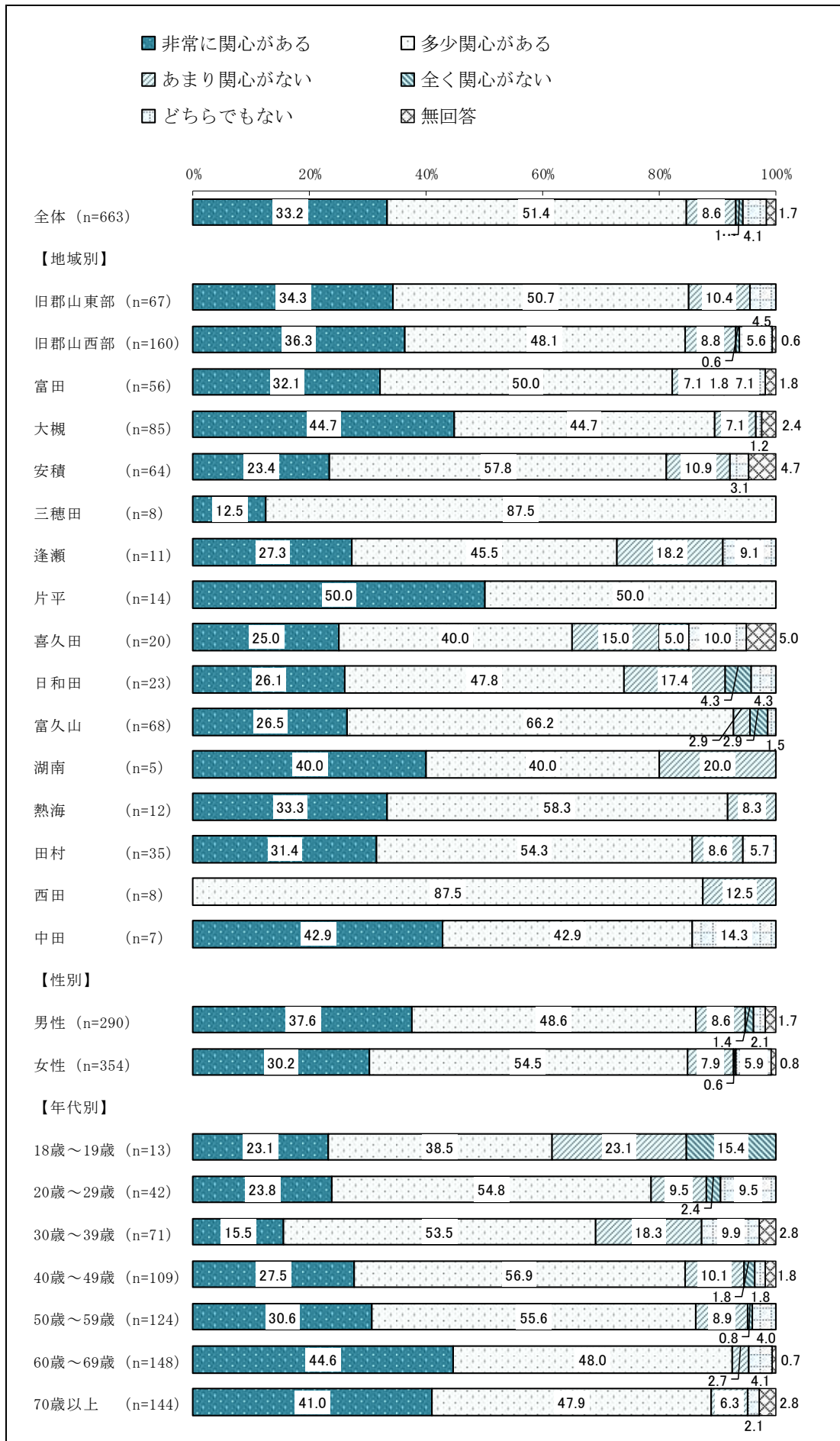
#### ① 性別

『関心がある』の割合は、男性（86.2%）の方が女性（84.7%）よりもやや高くなっています。

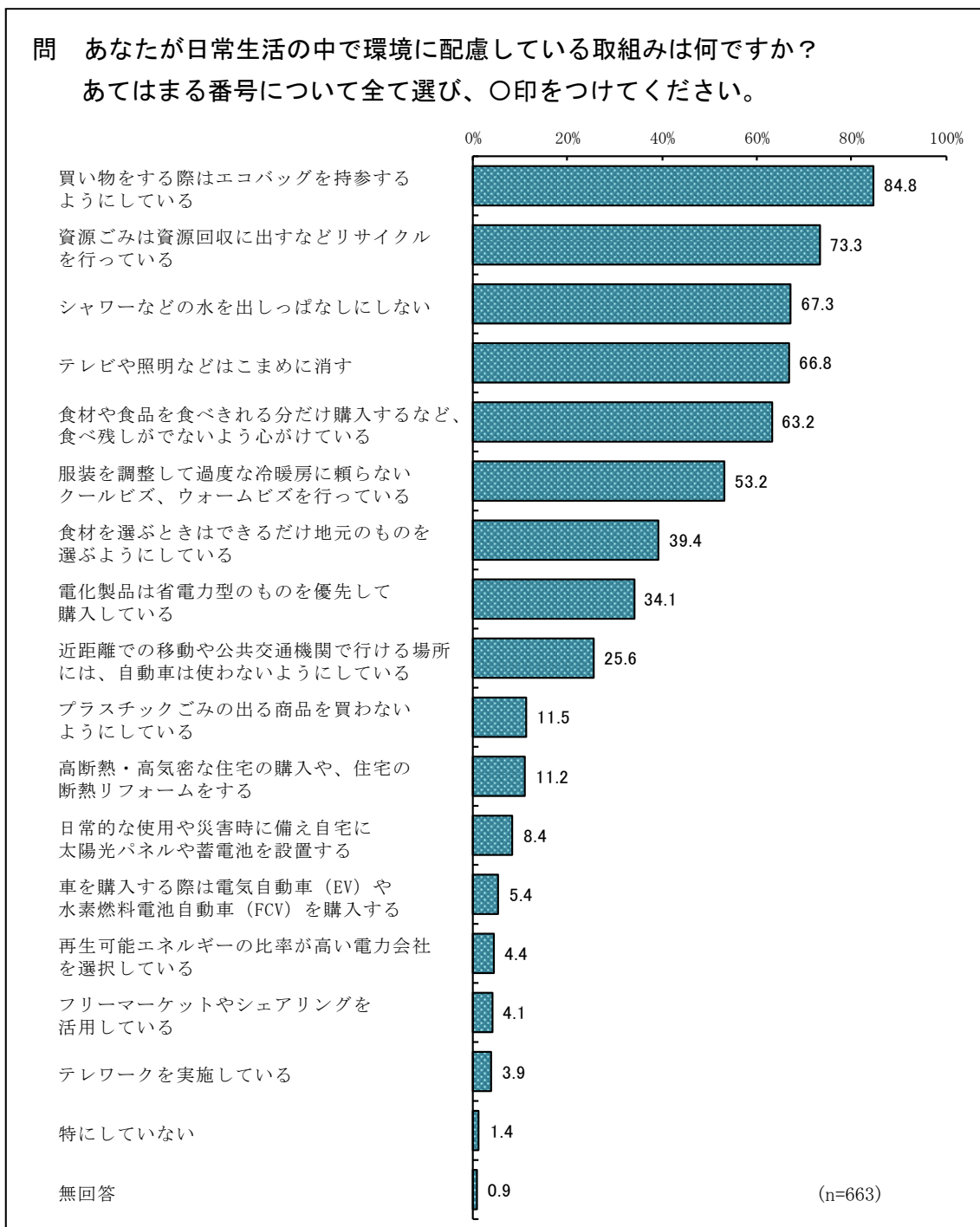
#### ② 年代別

『関心がある』の割合は、60代（92.6%）で最も高く、約9割となっています。最も低いのは30代（69.0%）でした。

図 4-2 気候変動対策への関心（地域別／性別／年代別）



### (3) 日常生活の中で環境に配慮している取組み（複数回答）



— 8割以上が「買い物をする際はエコバッグを持参するようにしている」 —

## 【全体結果】

環境に配慮している取組みとして最も多かったのは「買い物をする際はエコバッグを持参するようにしている」(84.8%)となっています。次いで、「資源ごみは資源回収に出すなどリサイクルを行っている」(73.3%)、「シャワーなどの水を出しっぱなしにしない」(67.3%)、「テレビや照明などはこまめに消す」(66.8%)、「食材や食品を食べきれぬ分だけ購入するなど、食べ残しがでないよう心がけている」(63.2%)、「服装を調整して過度な冷暖房に頼らないクールビズ、ウォームビズを行っている」(53.2%)と続き、半数以上の市民が取り組んでいます。

## 【属性別結果】(図 4-3 参照)

### ① 性別

「買い物をする際はエコバッグを持参するようにしている」の割合は女性(92.4%)で特に高く9割以上となっています。

### ② 年代別

すべての年代において「買い物をする際はエコバッグを持参するようにしている」が8割以上となっています。

また、「資源ごみは資源回収に出すなどリサイクルを行っている」、「食材を選ぶときはできるだけ地元のものを選ぶようにしている」は年代が高いほど割合が高い傾向にあります。

図4-3 日常生活の中で環境に配慮している取組み～1/6～（地域別／性別／年代別）

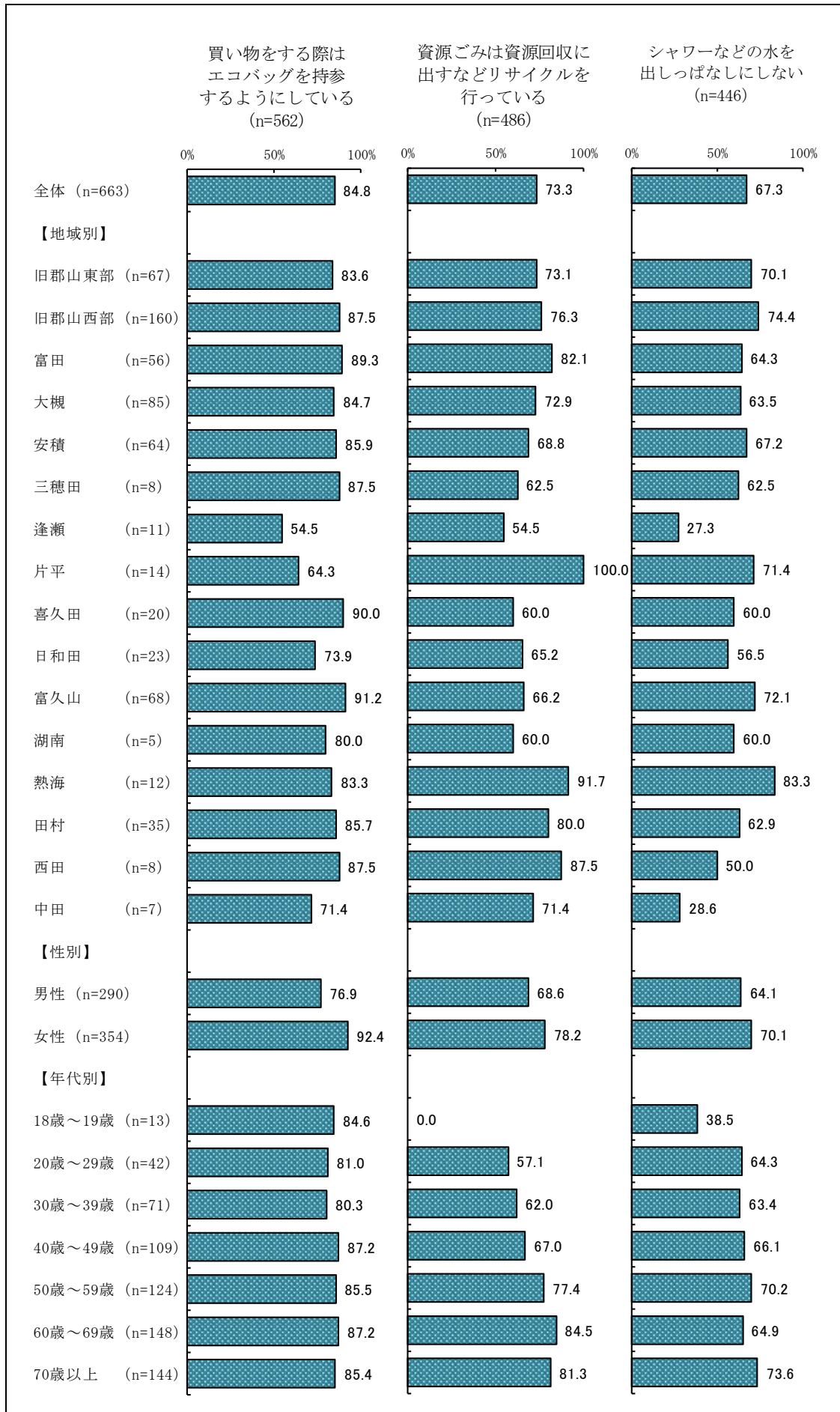


図4-3 日常生活の中で環境に配慮している取組み～2/6～（地域別／性別／年代別）

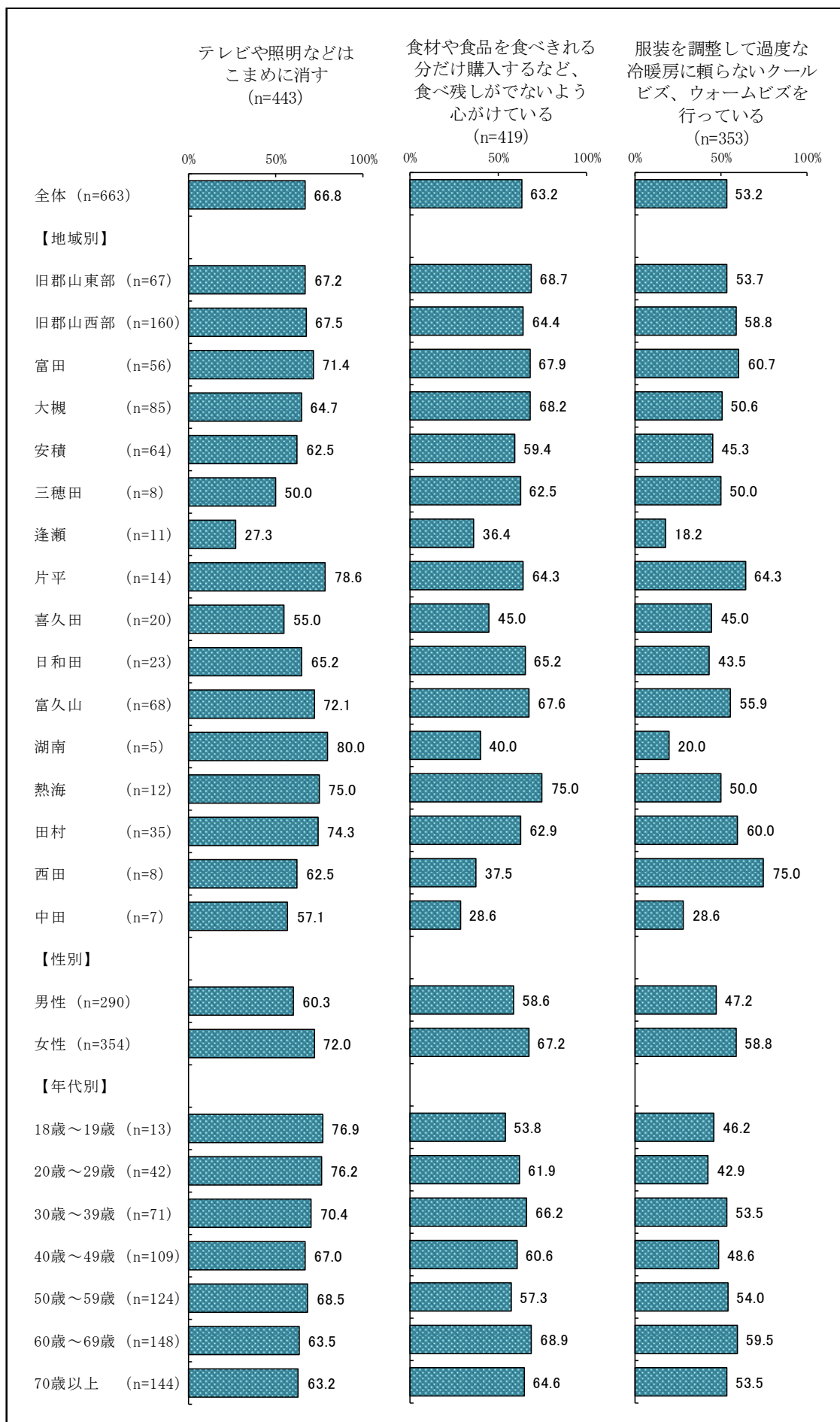




図4-3 日常生活の中で環境に配慮している取組み～3/6～（地域別／性別／年代別）

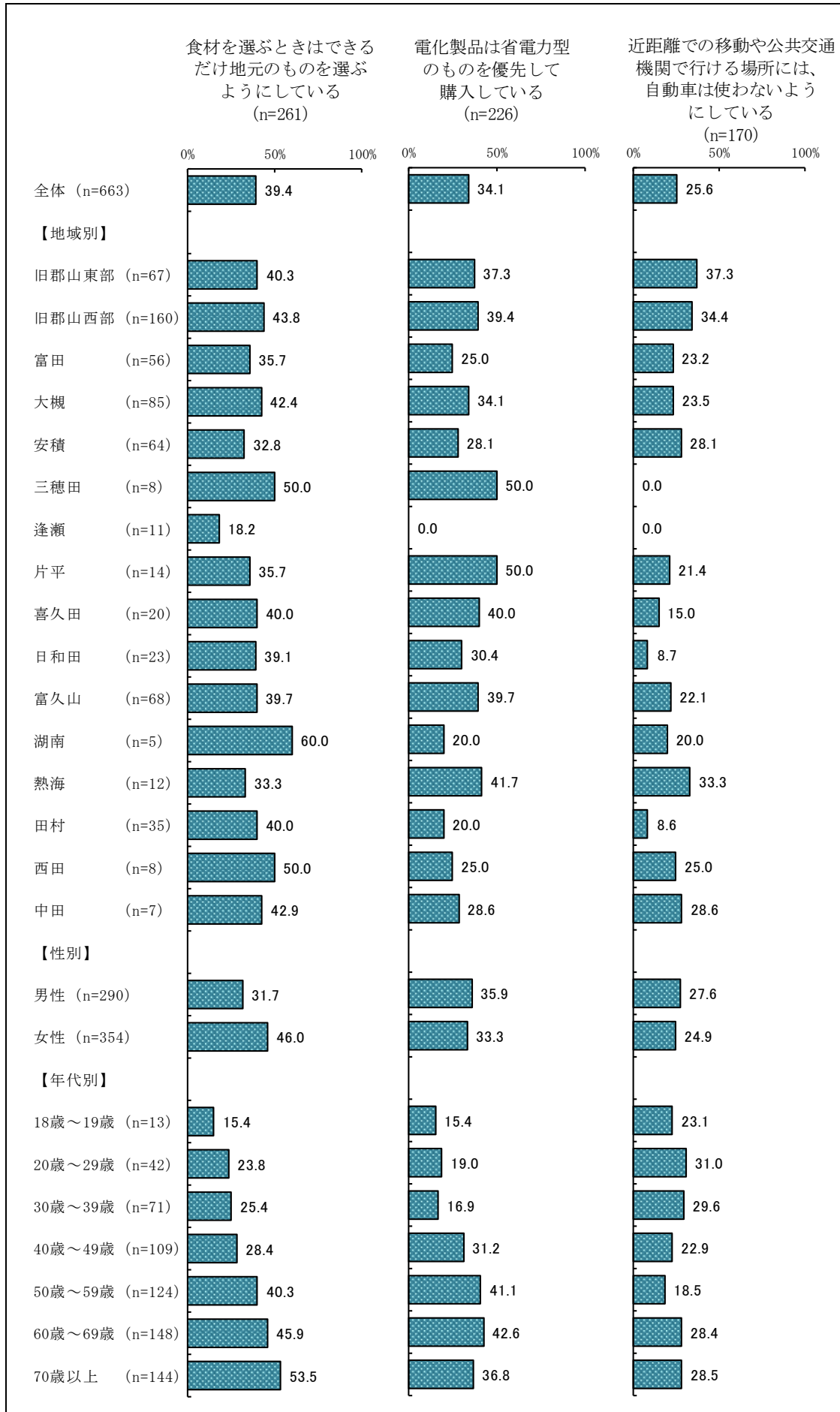


図4-3 日常生活の中で環境に配慮している取組み～4/6～（地域別／性別／年代別）

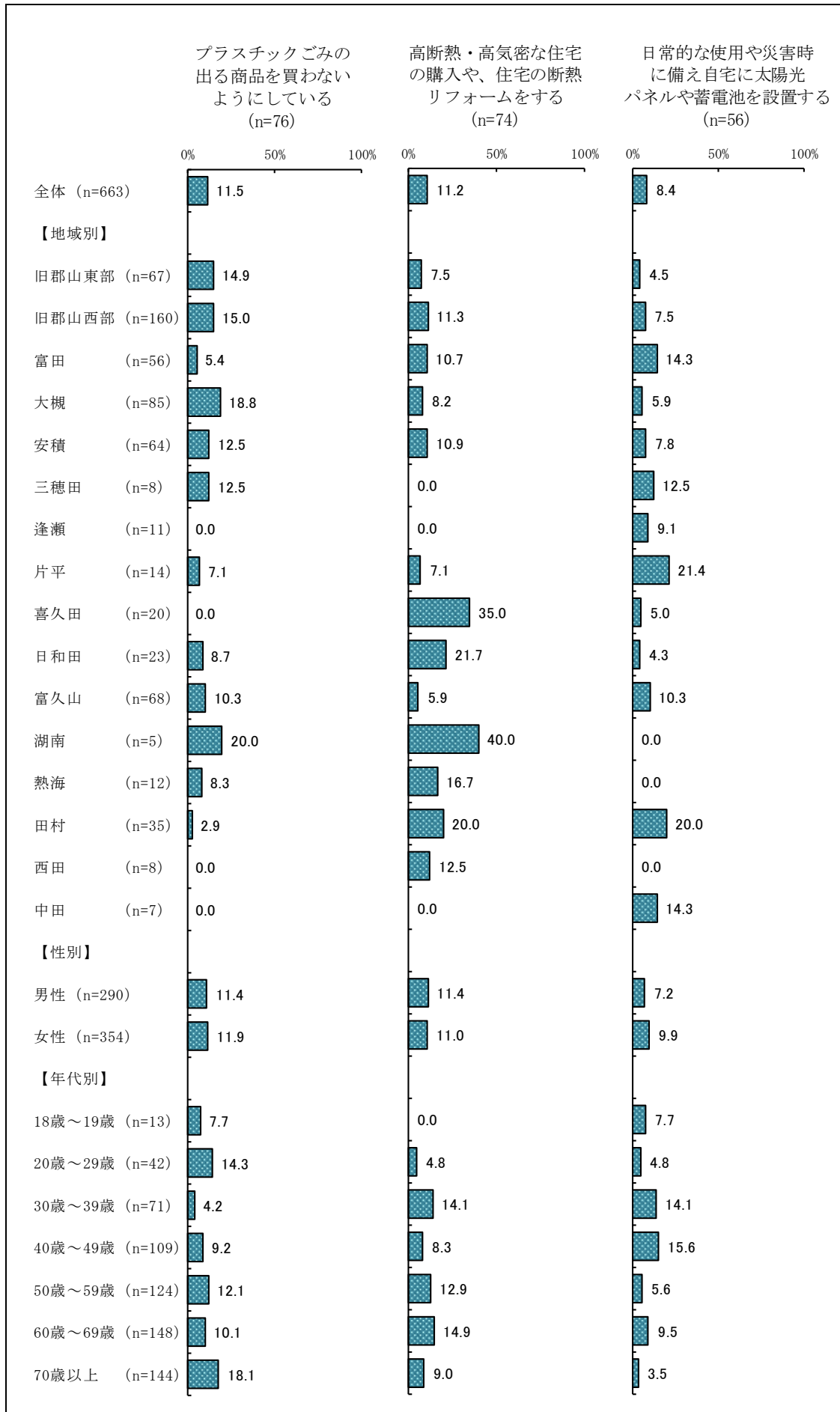


図4-3 日常生活の中で環境に配慮している取組み～5/6～（地域別／性別／年代別）

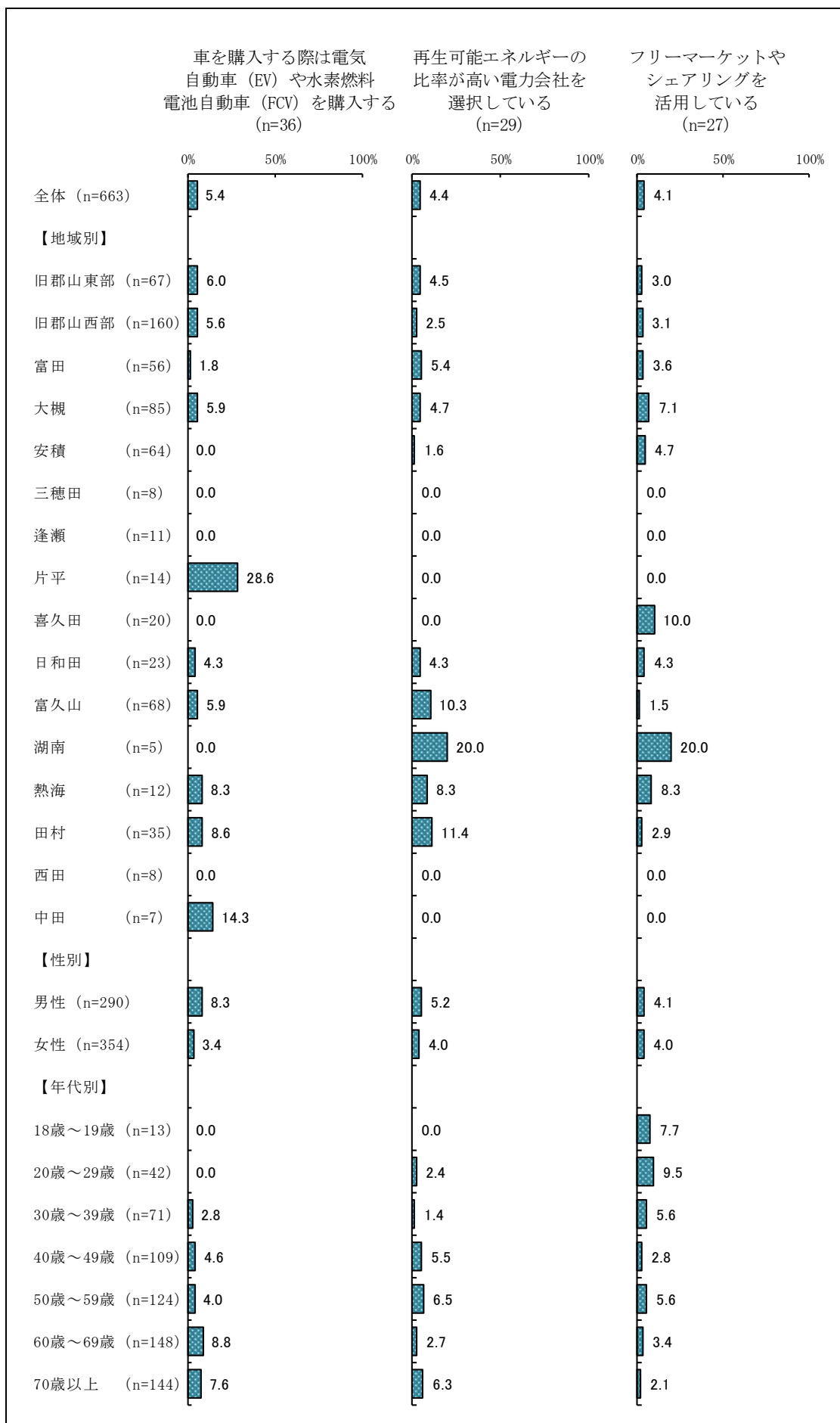
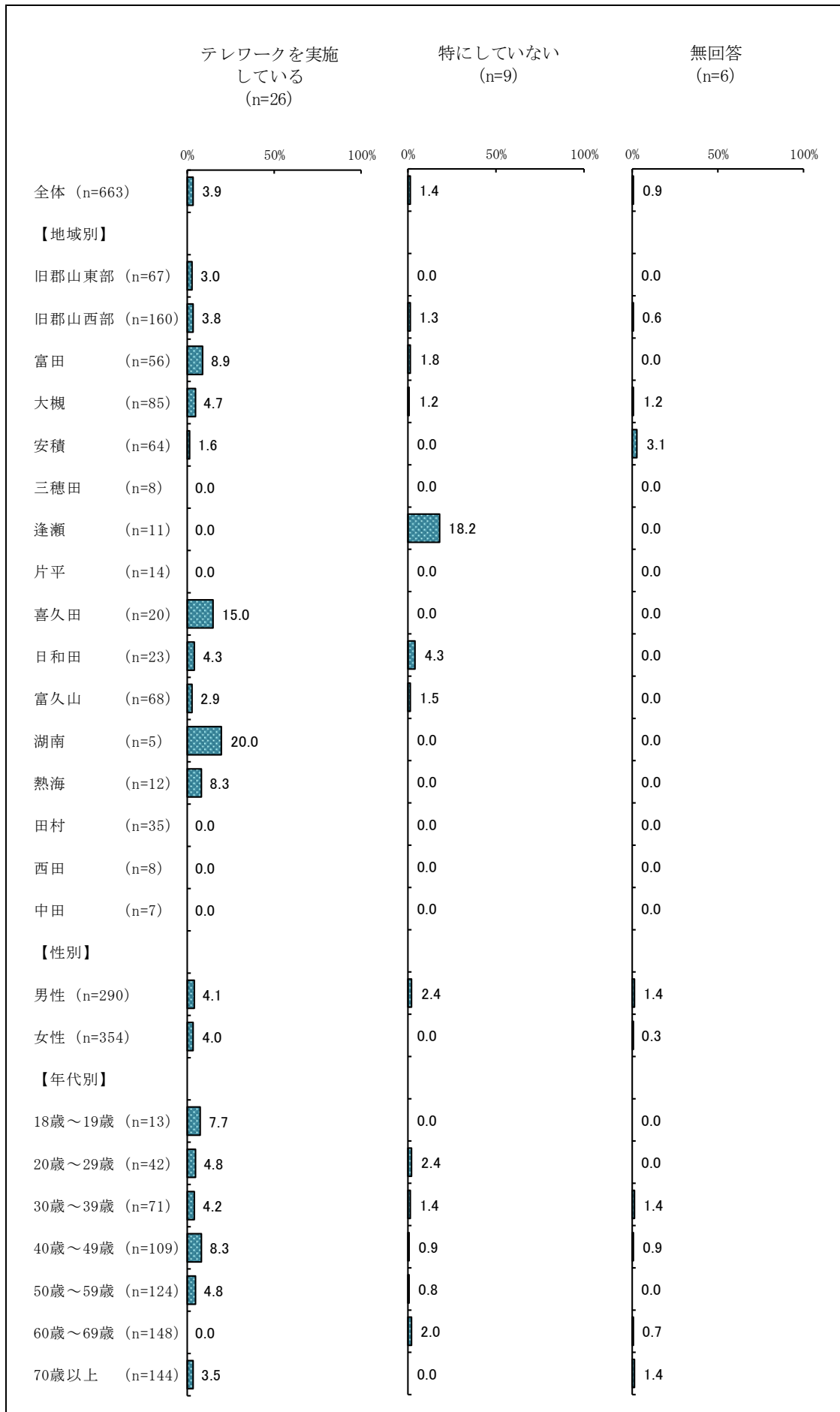
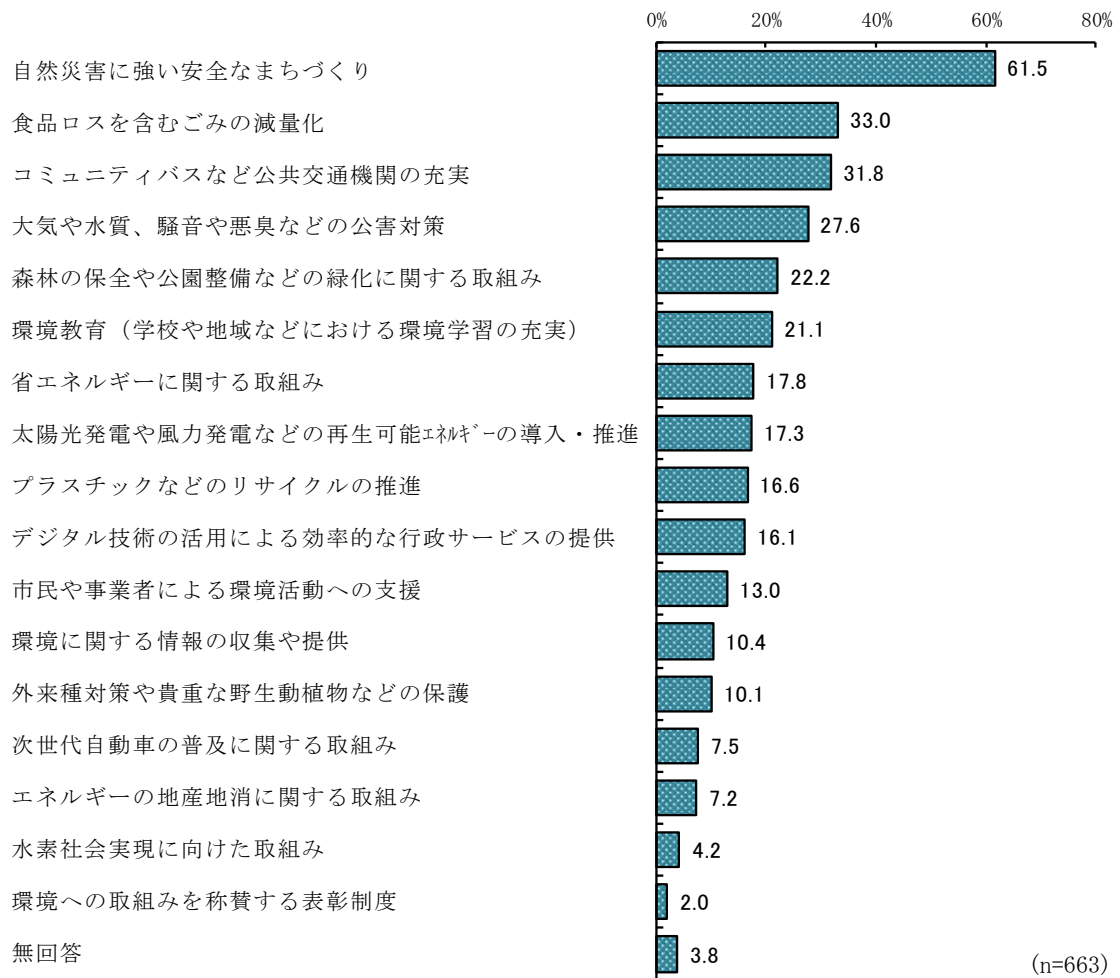


図4-3 日常生活の中で環境に配慮している取組み～6/6～（地域別／性別／年代別）



(4) より良い環境づくりのために取組むべきこと (複数回答)

問 より良い環境づくりを進めるために、郡山市は今後どのようなことに力を入れて取組むべきだと思いますか？  
 あてはまる番号を3つ選び、○印をつけてください。



— より良い環境づくりのために取組むべきことは

「自然災害に強い安全なまちづくり」 —

## 【全体結果】

より良い環境づくりを進めるために、郡山市が力を入れて取り組むべきとして最も多かったのは「自然災害に強い安全なまちづくり」(61.5%)となっています。次いで、「食品ロスを含むごみの減量化」(33.0%)、「コミュニティバスなど公共交通機関の充実」(31.8%)が3割台で続いています。

## 【属性別結果】(図 4-4 参照)

### ① 性別

男性、女性ともに「自然災害に強い安全なまちづくり」が最も多くなっています。女性(67.5%)の方が男性(56.6%)よりも割合が高くなっています。

### ② 年代別

すべての年代において「自然災害に強い安全なまちづくり」が5割以上となっています。

また、30代では他の年代に比べ「環境教育(学校や地域などにおける環境学習の充実)」割合が高くなっています。

図4-4 より良い環境づくりのために取り組むべきこと～1/6～（地域別／性別／年代別）

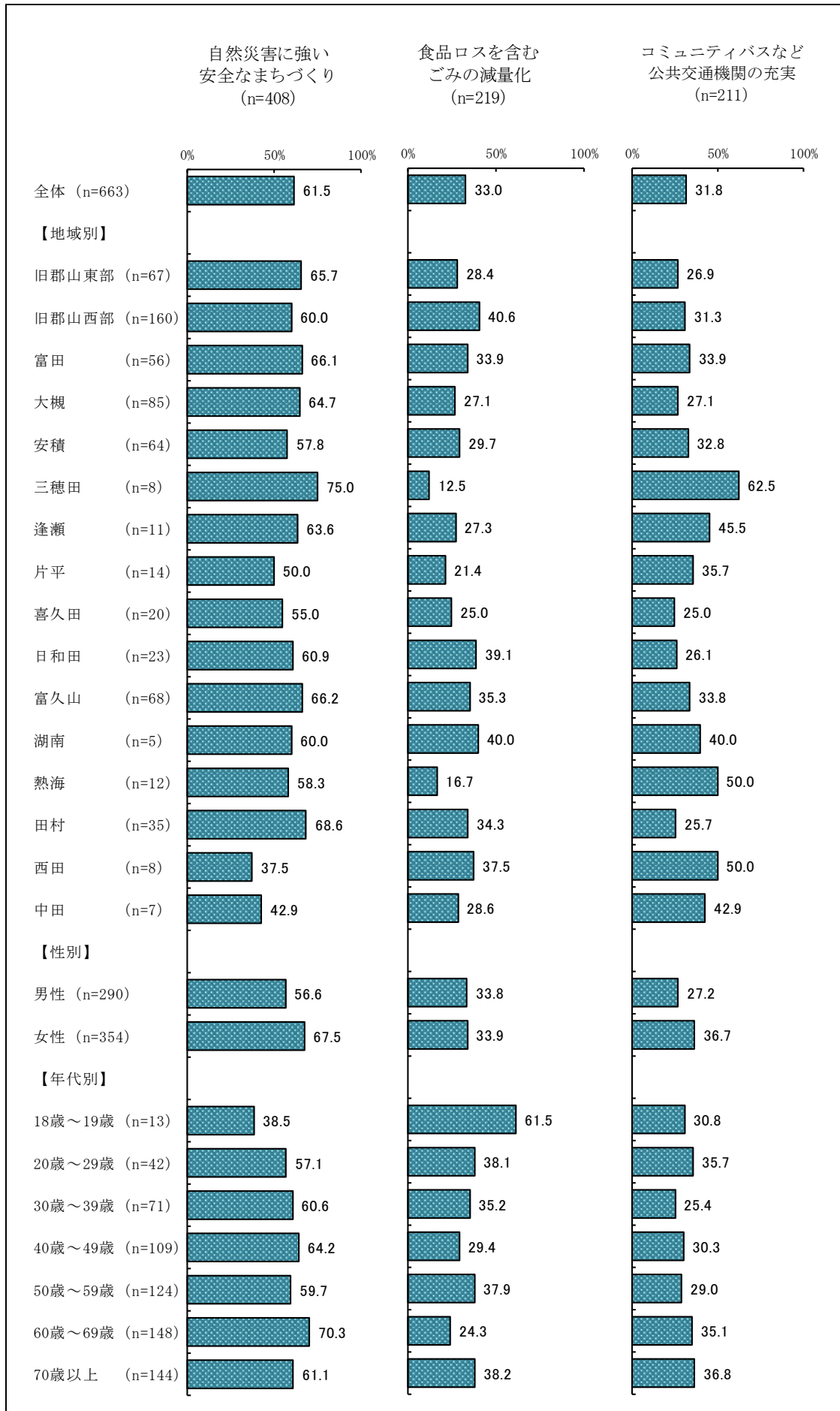


図4-4 より良い環境づくりのために取組むべきこと～2/6～（地域別／性別／年代別）





図4-4 より良い環境づくりのために取組むべきこと～3/6～（地域別／性別／年代別）

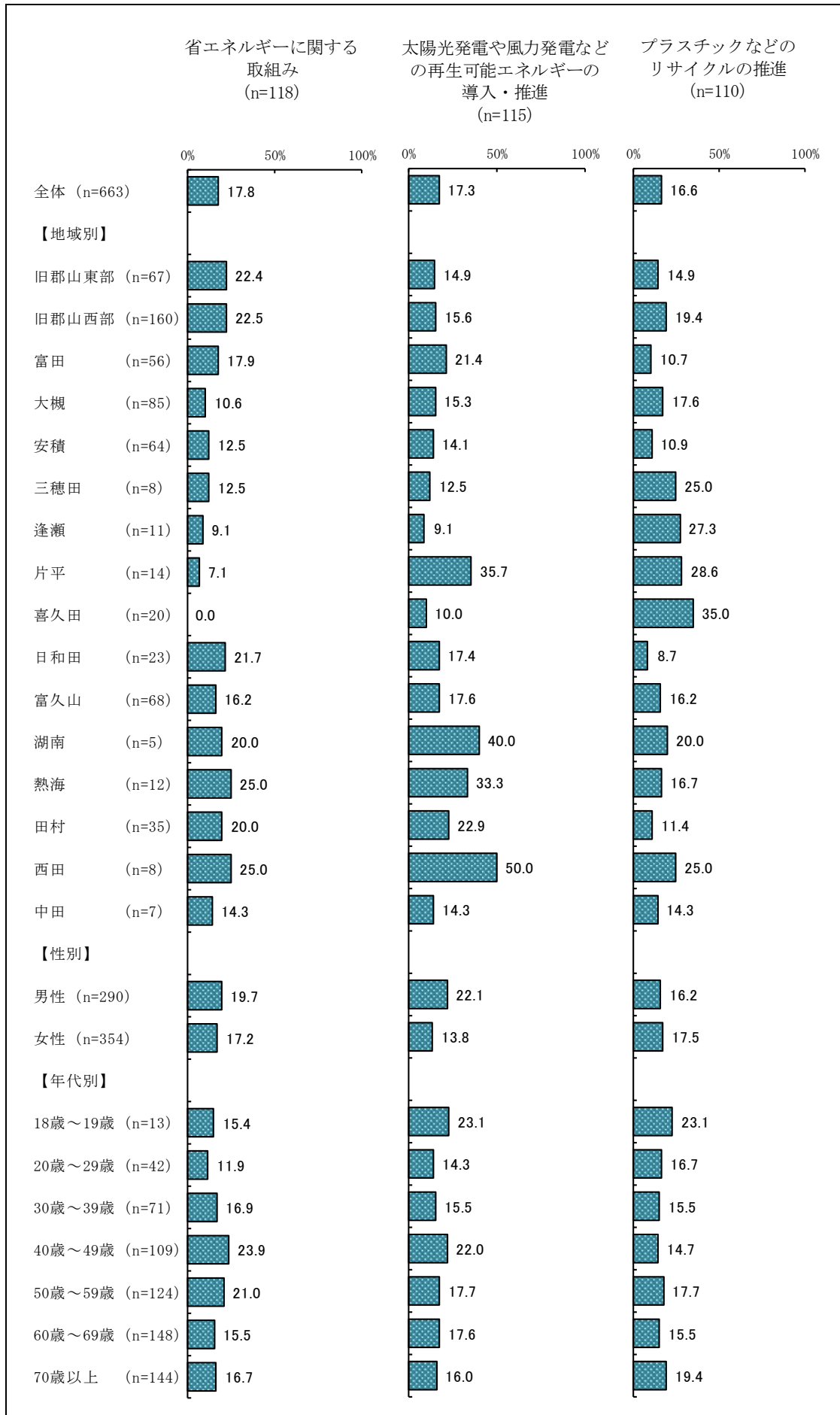


図4-4 より良い環境づくりのために取り組むべきこと～4/6～（地域別／性別／年代別）

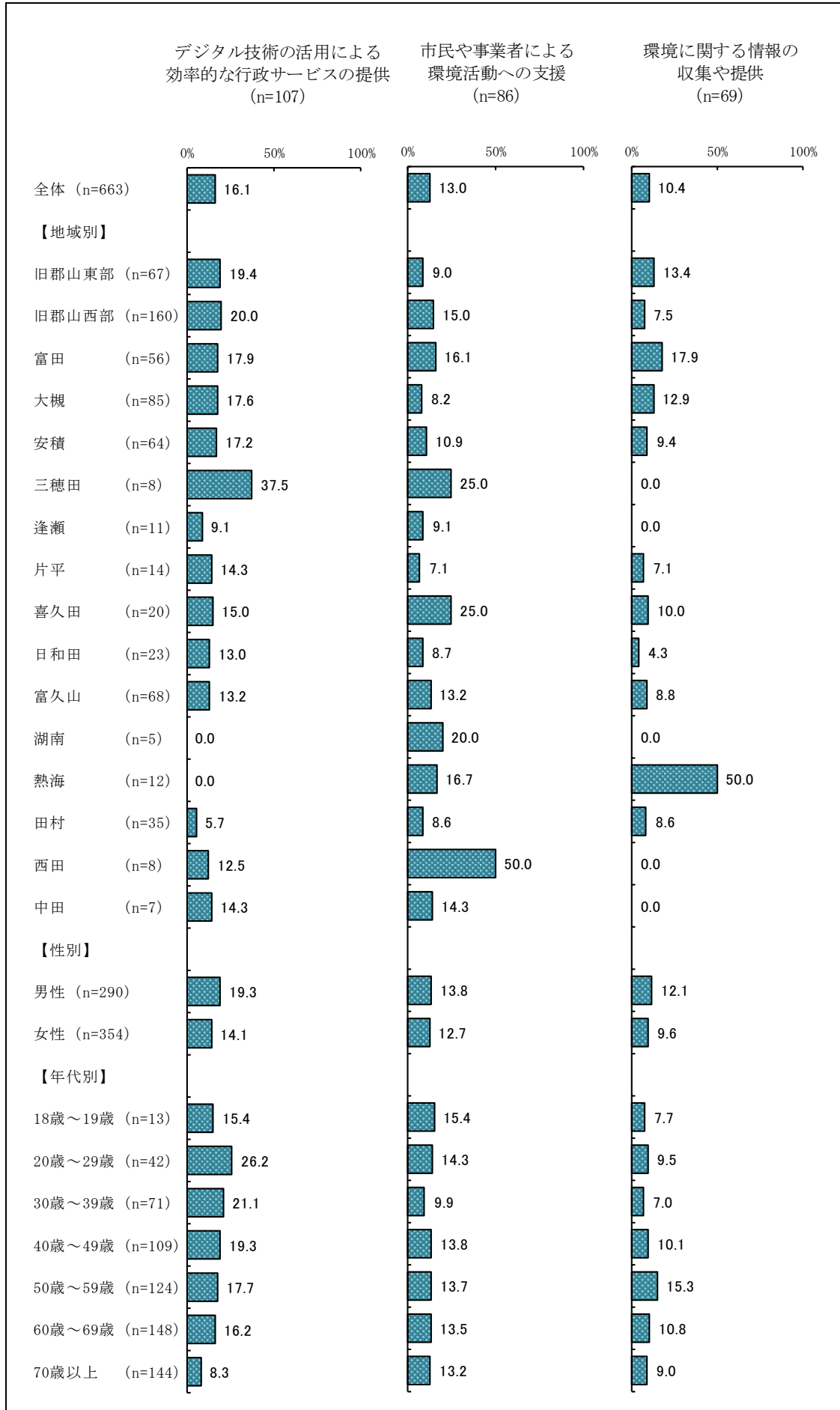


図4-4 より良い環境づくりのために取組むべきこと～5/6～（地域別／性別／年代別）

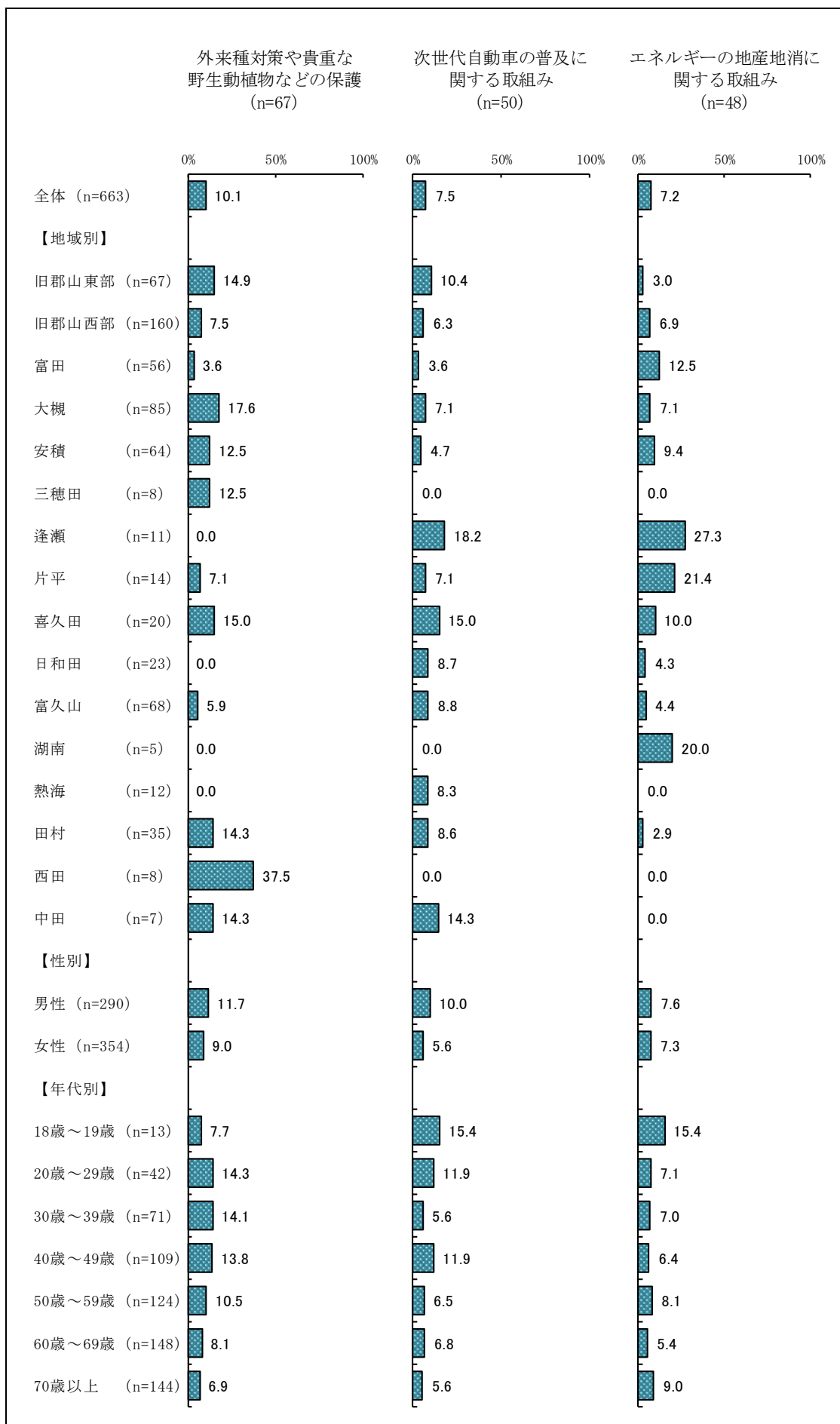


図4-4 より良い環境づくりのために取組むべきこと～6/6～（地域別／性別／年代別）

